

# 重なる暴挙に沖縄の怒り爆発

## ヘリ墜落の原因解明せず飛行再開 オスプレイ追加配備強行

墜落したHH60の同型機



### 日本の警察、消防は現場に入らず 墜落時原因究明なく同型機運行再開

8月5日、沖縄県宜野座村にある米軍訓練場内の山中に米軍嘉手納基地所属のヘリコプターが墜落、炎上する事故が起きました。事故現場は、2キロ離れたところには民家があり、近くを沖縄自動車道が通っており、あわや大惨事にいたるところでした。

宜野座村に占める米軍基地は50.7%に及び、連日、HH60やオスプレイの低空飛行訓練が繰り返され、住民は命の危険にさらされています。

沖縄における米軍機の墜落事故は1972年の施政権返還後だけでも今回までに45件起き、死者・行方不明者は計84人に上っています。このような、基地あるが故の不安は一刻も早く除去されなければなりません。

ヘリ墜落事故に対して、警察も消防も基地内の事故現場に立ち入ることを米軍によって拒否されています。

住民の生命にかかわる事故原因の究明もされないまま、米軍は墜落したヘリと同型機の運行を16日に再開しました。私たちは事故の再発防止のために、日本の調査権、捜査権の行使と、その障害になっている日米地位協定の改定を強く求めます。

### オスプレイ追加配備強行と 全国での低空飛行訓練は許せない

日米両政府は7月30日、岩国市民などの強い反対を無視して、沖縄・普天間基地への追加配備のためのオスプレイ12機を米軍岩国基地に陸揚げしました。

そして、米軍は8月3日から普天間基地への追加配備の強行をはじめましたが、その直後の5日に米軍ヘリ墜落事故がおきました。

このような重大な事態にもかかわらず、米軍はオスプレイの移駐を1週間中断しただけで、12日には配備を再開し、追加配備を強行しています。

日米両政府は、この追加配備を受けて、沖縄県内での訓練とともに、全国の7つのルートなどを使って全国での訓練をおこなおうとしています。

オスプレイは、開発段階から墜落事故を繰り返してきた世界に知られた欠陥機です。オスプレイは、他国への侵略の拠点を築くための「殴り込み部隊」の軍用機であり、日本の防衛とは関係のないものです。

私たちは、オスプレイの追加配備と全国での訓練に反対し、日本からの撤去を求めます。



オスプレイ追加配備に抗議する人々

安保破棄中央実行委員会 Eメール [anpohaiki@nifty.com](mailto:anpohaiki@nifty.com)  
TEL 03-3264-4764 FAX 03-3264-4765

2013年  
8月